

兼六園と辰巳用水を守り、ダム建設を阻止する会

Tatsumi Express <辰巳の会ニュースレター>

ハイライト

- 辰巳ダム再評価、県の思惑どおりにはすまず、結論をいまだ出せず！
- 市民と県の辰巳ダム意見交換、予備交渉から終始市民側がリード！
- 辰巳ダム問題、テレビで全国へ！
- “地球のヒーロー”招いて講演&トーク！

目次:

辰巳ダム問題がテレビで全国に！	2
“地球のヒーロー”を招いて講演&トーク	2
金沢アースデー・フェスティバル	2
再評価 - 県側説明の問題点	3
意見交換予備交渉	3
気象台長発言でダムは合理化できない	3
予備交渉こぼれ話	4

全国でも異例！ー辰巳ダムの再評価、年度内に結論出せず

公共事業の再評価を審議する第2回石川県公共事業評価監視委員会(全体会)が3月16日に開かれましたが、辰巳ダムの再評価については、年度内に結論を出すことができませんでした。

辰巳ダム再評価は、当初は98年12月中に結論を出す予定でしたが、「20年以上にわたって反対運動がつづいている」事業の必要性を判断するためのデータが県から提供されていない」といった意見が出され、「99年3月中に結論」に後退。それさえ実現できずに、再評価の結論が年度を越えるという全国的にも異例の事態になっています。

辰巳の会の運動をはじめ、辰巳ダムに反対する運動、世論の大きな成果です。

公開で開催された第2回監視委員会では、県の「辰巳ダム建設は事業継続」という方針に対して批判的な意見・質問が続出。県河川開発課はまともに説明することができず、結論は次回以降に先送りされました。



意見を述べる市民側参加者(4月17日)

市民と県側のはじめての意見交換

辰巳の会をはじめ辰巳ダム建設計画に批判・疑問をもつ市民・市民団体と県との意見交換会が、4月からはじまりました。市民側と県側が辰巳ダムについて公開で意見交換するのは、20数年におよぶ辰巳ダム問題の歴史のなかではじめてのことです。

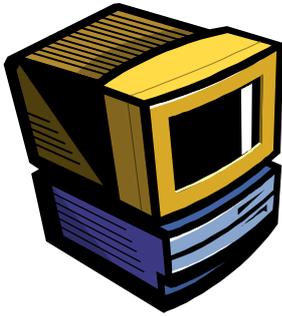
意見交換の発端は、2月24日に行われた県土木部長の記者会見。【辰巳ダムの建設を推進するため）反対派と対話する場を設ける方針」との部長発言に対し、市民側は「辰巳ダム推進のため」という位置づけを取り消すこと、意見交換は公開で行うこと、公共事業評価監視委員会への意見交換の報告文書は市民側・県側合同で作成すること、議題は市民側が提起した8つの問題とすること、意見交換の内容を公共事業評価監視委員会に正確に伝え再評価に活かすことなどの条件を掲げて予備交渉にのぞきました。2回・7時間におよぶ予備交渉の結果、基本的に市民側の出した条件が満たされたため、辰巳ダム問題史上

初の意見交換会が実現しました。

第1回の意見交換会は4月17日、約3時間半におよび、河川法で定められている工事実施基本計画がないまま辰巳ダム建設がすすめられてきた問題、辰巳ダム計画が想定している雨量・洪水量が恣意的に決められたのではないかと、この問題について議論が交わされました。

市民側は資料やパネルを用意して意見交換会にのぞみましたが、県側は資料1枚さえ用意しておらず、市民側の批判・疑問にまともに答えることができませんでした。

次回意見交換会は5月中旬以降に開かれる予定です。辰巳の会は、会内外の専門家の協力もえて、一連の意見交換会をつうじて辰巳ダム計画の問題点を浮き彫りにし、再評価で「事業継続」の県方針が認められることのないよう、とりくみをつよめていきます。



5月16日...辰巳ダム問題がテレビで全国に!

辰巳ダム問題がテレビの全国ネットで紹介されます。

日本テレビ系「NNN ドキュメント99」(石川県ではテレビ金沢)で5月16日(日)24時20分(17日0時20分)～50分に放送される「殿様用水が沈む! - 金沢 辰巳ダム建設」です。

「殿様用水」は、兼六園 金沢城に水を

供給する辰巳用水を敬って地元のひとつひとつが見つかった呼び名。その取水口と最上流部の水トンネルを破壊する辰巳ダム建設計画の問題点をつく番組になりそうです。辰巳の会のメンバーも「出演」します。

まわりの人に声をかけて、ぜひご覧ください。また、テレビ局、辰巳の会へご感想をお寄せください。

5月29日...「地球のヒーロー」をまねいて 講演&トーク

5月29日(土)14時～16時30分、金沢読売会館で、講演&トーク「地球のヒーローたちと考えよう! 公共事業の流れをどう変えるか?」を開催します。

講師には、日本の環境保護運動をリードしている最高のおふたりをお招きします。

山下弘文さん...「昨年の「ゼロチン」で世界的に知られることになった諫早湾干拓事業の見直しを求めて27年前から活動を続けてこられました。その地道な活動が認められ、昨年、日本の環境問題に関わる活動家としてははじめて、環境問題の「ノーベル賞」とよばれるゴールドマン環境賞を受賞。「TIME」誌子ども版では「地球のヒーロー」に選ばれました。

辻 淳夫さん...「シギ・チドリ」の日本一の飛来地、藤前干潟をゴミの最終処分場

として埋め立てる計画に反対する運動の先頭に立ってこられました。「ノーモア諫早」の全国的な世論の後押しもあり今年になって計画は正式に中止されました。藤前干潟をラムサール条約登録湿地にと、運動はさらに前進をつづけています。

統一地方選の徳島市議選で住民投票推進派が過半数を占め、吉野川可動堰建設計画が中止に向けて方向転換するなど、公共事業をめぐる情勢は大きく変わりつつあります。この変化をつくるうえで大きな役割を果たしてこられたおふたりに迎えての講演&トークは、公共事業再評価で重要局面にさしかかっている辰巳ダム計画を休止・中止に追い込む上で貴重な示唆を与えてくれるでしょう。

5月29日(土)14時
金沢読売会館
地球のヒーローたちと考えよう!
公共事業の流れをどう変えるか!

金沢アースデー・フェスティバルに参加

5月2日(日)、金沢中央公園で開催された第10回金沢アースデー・フェスティバルに、辰巳の会も参加しました。

辰巳の会のブースでは、辰巳ダム建設計画の問題点をしめす4枚のパネルを展示したほか、書籍販売と講演&トーク(5月29日)のチラシ配布を行いました。

当日はお天気にめぐまれ、アースデー・フェスティバルは家族連れなどでにぎわいました。

この間の運動の前進、世論の高まりを反映して、辰巳の会のブースを訪れる人は去

年よりもずっと多く、質問を投げかけてくれる人も少なくありませんでした。

設営などを手伝ってくれるボランティアをインターネットで呼びかけたところ、辰巳の会の会員以外でふたり、協力してくれました。

中央舞台の「わたしの好きなピオトープ・スポット」のコーナーでは、辰巳の会・中井安治会長代行が舞台に招かれ、犀川峡谷や辰巳用水の魅力を語りました。



辰巳の会のパネルに見入る市民

辰巳ダム再評価における県の説明の問題点を監視委に提出

3月16日開催の第2回公共事業評価監視委員会では、辰巳ダム計画に関する集中審議が行われましたが、県側の報告・説明の中には事実に反する発言、事実を隠した発言、市民からの批判によって破綻済みの主張を繰り返した発言が少なからずありました。

第2回監視委は辰巳ダム再評価についての結論を出すことができず、結論は第3回以降に先送りされましたが、県側報告の内容を重視した辰巳の会は、4月15日、「第2回公共事業評価監視委員会での県側説明の問題点」を、事務局（県

土木部監理課）を通じて監視委員会・川島良治委員長に提出しました。また、同文を、監視委員全員に郵送しました。

内容は、「1時間92ミリ」の降雨量算定は「データの捏造」に基づくもの、高畠地区で水位を3メートル下げるとの辰巳ダムの効果ではない、環境アセスメントへの批判にまったく答えていない、支離滅裂で検算のしようもない洪水被害防止効果＝3千億円」など。

全文は、辰巳の会ホームページ「Tatsumi Line」で読むことができます。



市民側の要求に沿った合意を達成！ - - 意見交換予備交渉

4月3日（土）午後1時から7時まで、市民側と県側の間で、辰巳ダム計画に関する意見交換会に向けた2回目の予備交渉が行われました。5時間におよぶ交渉の結果、大筋において、市民側の要求に沿った合意に達することができ、4月17日の第1回意見交換会が実現しました。

今回の意見交換の発端は、『辰巳ダムの建設を推進するため』反対派と対話する場を設ける方針」という県土木部長の記者会見。「20年以上反対運動がつづいている」ことなどを理由に、公共事業再評価で辰巳ダムの結論が年度内に得られなかったことから、事態の打開策としての発言と思われる。

しかし、「辰巳ダム推進のための意見交換」に辰巳の会ははじめ市民側が応じられないことは明らかです。また、第2回公共事業評価監視委員会への辰巳ダムに関する県の報告で事実が歪曲されるなど多くの

問題があったことなど、これまでの「前歴」を考えると、意見交換会が、辰巳ダム再評価で「継続」の結論を得るための材料として利用される危険もあります。

市民側は、意見交換会を「継続」の結論をえるためのアリバイづくりに利用させず、辰巳ダム計画の問題点を徹底的に明らかにする場にさせるため、市民側が意見交換に応じる条件（1面の記事参照）を断固ゆずらず、予備交渉を終始リードしました。

市民側の道理ある主張を県側も認めざるをえず、5時間半におよぶ交渉の結果、市民側要求に沿ったかたちで合意文書をと리카わし、はじめての公開の場での意見交換が実現することになりました。

市民側が予備交渉を終始リード。意見交換会を、辰巳ダム計画の問題点を明らかにする場に。

地方気象台長発言で辰巳ダムの治水計画は合理化できない

2月24日の県土木部の記者会見には、飯島邦彦 金沢地方気象台長が同席し、「金沢でも1時間に90ミリを超える雨が降る可能性はある」と発言しました。この記者会見は、辰巳ダム計画の妥当性を訴えるため」として県が開いたもので、その場での台長発言は、辰巳ダムの治水計画が妥当であるとの印象を与えかねないものでした。

事態を重視した辰巳の会は、3月1日、事務局3名で金沢地方気象台を訪ね、飯島台長と会見しました。

質疑応答のなかで、飯島台長は、記者

会見での発言は「ぜったい降らないとは言いきれない」という程度の意味であること、百年確率の雨量を92ミリと想定している辰巳ダム計画が妥当かどうかについて述べたものではないことなどを明らかにしました。

このような発言を「辰巳ダム計画の妥当性を訴えるため」の記者会見に組み込み、辰巳ダムの治水計画が妥当なものであるかのような印象を与えようとした県の姿勢と見識が問われます。



パネルをつかって辰巳ダムの問題点を追求（4月17日）

兼六園と辰巳用水を守り、ダム建設を阻止する会

〒921-8134

金沢市南四十万1丁目217

辰巳の会事務局

TEL/Fax: 076-298-7429

Email: saigawa@mva.biglobe.ne.jp

会費納入とカンパのお願い

この間の辰巳の会の活発な運動が功を奏し、辰巳ダム再評価が県の思惑どおり進まず、市民と県の意見交換によって計画の問題点がいつそ明らかになってきています。再評価で「事業継続」という県の方針が認められないよう、この1・2か月に一気に取り組みをつよめる必要があります。会の活動をささえるのは、みなさんの会費とカンパです。ぜひ、会費納入、カンパをお願いします。年会費は、個人会員千円、団体会員3千円です。

郵便振替 : 00780 - 8 - 19743 「辰巳の会」

辰巳の会のホームページを開設しました！

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~saigawa/>

辰巳の会ホームページ「Tatsumi Line」では、最新情報・詳細情報をつぎつぎと公開しています。ぜひご覧ください。

うっかりしていました？（予備交渉こぼれ話）

意見交換会に向けた2回目の予備交渉（4月3日）の最後のできごと。

予備交渉では、県土木部長が「辰巳ダムの建設を推進するために反対派と対話する場を設ける」と述べたことを、市民側は最初から問題にしました。第1回予備交渉（3月6日）の冒頭、辰巳ダム推進のため...」の文言を県側が公式に否定することが予備交渉をはじめの前提条件であることを市民側が言明。30分におよぶやりとりの結果、県側が同意したため、予備交渉が開始されました。

ところが、5時間におよぶ2回目の予備交渉の最終局面にいたって県側が突然、「辰巳ダム推進のため」の否定を合意文書に残すことに抵抗。この問題だけでさらに30分を費やすことになりました。県側は、合意したこと自体は認めるものの、それを文書化するには県庁にもちかえり土木部長の決裁を受ける必要があるなどと主張しました。

市民側は、「辰巳ダム推進のため」の文言の否定が予備交渉をはじめの前提であり、県側が受け入れたからこそ予備交渉が始まったことなどを厳しく指摘。市民側の事実と道理にもとづいた主張の前

に、県側も結局は文書化に応じました。ところが...

市民側・県側で合意事項をひとつひとつ確認しながら黒板に書き、それを県側（監理課職員）が紙に書き写し、コピーを2部とって双方が署名し取り交わすことになったのですが、県側が書き写したのものには、「辰巳ダム推進のための意見交換会」ではない」という言葉が入っていませんでした。

それを市民側が指摘すると、担当者「あ、うっかりしていました...」

最後にいちばんもめていた決着したばかりの問題を「うっかりしていました」とは何事か。意図的と言われても仕方ないことだ。そんなことだからあなた方は信用できないのだ！」と厳重に抗議しました。

辰巳ダム計画の内容に自信があるなら、姑息なことをせず堂々と説明し、理解を求めればよいはず。それができないのは、計画に合理性のないことを自覚しているという告白でしかありません。



県の治水計画の問題点を説明する中登史紀さん
(4月17日)

【編集後記】

事務局の一員として大活躍の宮崎悦子さんが7月に出産される予定です。大きなおなかを抱えての奮闘もそろそろお休みに。

「辰巳ダム中止」を出産祝いにプレゼントしたいものです。(H)